

Hi! アンドしです

社会教育指導員
アンドレ・エスタニスラオ

2月12日(月)は、建国記念の日の振替休日でお休みでした。私は、新幹線に乗って大好きな日本の都市に行きました。そう、「東京」です。私の家族や友人たちも、今までに行ったことのある世界中の都市の中で、東京はとても良いところだと話しています。そして、東京について驚くべきことは、とても国際的、近代的な都市であると同時に、旧来の伝統が息づく街でもあるということです。私が、渋谷でショッピングをしていたとき、和服を着た粋なカップルを見掛けました。また、サンフランシスコやパリといった都市とは違って、東京には、雑踏から逃れることのできる穏やかな場所があると私の友人は言います。

穏やかな場所の1つの例が、六本木にありました。フィリピン大使館が六本木にあり、私はそこに行きました。その日、私は、家族の友人で大使館の財務官である女性と一緒にランチに行きました。私は、彼女と一緒に国際文化会館に向かいました。「かつて、この施設は、もっぱら大使館に働く人々のためにあった」と彼女は話してくれました。けれども、今では誰でも食事をし、また、泊まることができます。そのレストランは、各国の大使館が立ち並ぶ六本木のど真ん中にあります。多くの人々が往来し、いつも賑やかな「六本木通り」からは離れています。彩りよく手入れされた素敵な庭があって、レストラン自体がオアシスです。私たちは、とても和やかな、そして素晴らしいランチを楽しみました。

ランチを楽しみながら、私たちは今季の暖冬のことなど、多くのことについて話をしました。また、その

庭の梅や桜の花がほころんでいるのを見つけました。私たちは、日本に住み、自国と異なったことを多く経験することが、どれくらい素晴らしいことかを話しました。さらに、素晴らしいことは、私たちがこの経験を家族や私たちの仲間のフィリピン人と分かち合うことができるということです。私は、小野町の社会教育指導員であるけれども、日本の文化と生活について、将来、他のフィリピン人とその経験を分かち合うことが出来るよう学んでいると話しました。

いままでの旅行と同様に、今回の東京旅行は、とても楽しかったです。この旅行が良かったのは、賑やかな東京にあっても落ち着いた雰囲気の中で仲間と話をし、そして、文化と経験の共有について学ぶことが出来たからです。



六本木の国際文化会館でフィリピン大使館の職員と

ふるさと小野町会 ふれあい通信

ふるさとの思い出

南端 庸子

(飯豊出身・埼玉支部)

日影山の麓、茅葺きの家が
多くあった行定に七人姉弟の
二女として生まれ、飯豊小学
校へのいつもの道は、急なこ
んじやの坂でした。大きな水
車小屋があり、木と木の歯車
がすれ合う音を聞きながら友
達と一緒にみちくさをしてい
ました。

遠足は鬼穴や矢大臣、高柴
山へ、おむすび2個、茹で卵
1個、夏みかんはとてもすつ
ばくて、でも、とても美味し
く感じました。帰り道は、草
花やすかなんぼを摘みながら
暗くなるのも忘れて遊んでい
ました。

家ではじゅちちとばっばが、
大きな鍋に季節の野菜、じゃ
がいも、大根、白菜、かぼち
やなどのおつけを煮て待つて
いました。

中学校は田尻に新校舎が建
てられたので、家から近くなり、
畦道を竹馬でカバンを縄でし

よって縞のモンペをはいて通
いました。

お祭りやお花見がとても楽
しみで、年に一度の旅役者の
芝居や満開の桜、滝平の発電
所の庭で隣組の人達が重箱の
ごちそうを囲んで酒を飲みな
がら歌ったり踊ったりして仕
事の疲れも忘れて楽しんだこ
とが心に残っています。

現在の趣味は、生け花、編
み物、手芸の小物作りです。
今は、山歩き、神社仏閣参り、
公園を歩いています。

昨年10月に東堂山の羅漢様
をお参りして、帰りは姉弟と
湯沢温泉で身体も心も温かく
なって故郷を後にしました。

